



島の自然環境を守り活かす 「いしがき」

1. 環境と風景

海の生態系を維持する大切な役割を担っているサンゴ礁は、本市において重要な観光資源、漁業資源となっております。しかしながら、平成28年度に夏場の高海水温が原因と考えられる大規模白化現象が発生し、石西礁湖内の35調査地点におけるサンゴの平均白化率は約90%となっており、未だ回復には至っておりません。

本市といたしましても、石西礁湖の豊かなサンゴ礁を再生するために設立された「石西礁湖自然再生協議会」へ参画し、赤土流出防止や生活排水の改善等陸域からの環境負荷対策を推進してまいります。

さらに、サンゴ養殖、移植を行う「サンゴ復活応援プロジェクト」を引き続き実施し、市民のサンゴ保全活動の機運の醸成を図るとともに、子ども達への環境教育に取り組んでまいります。

また、平成28年度に関係行政機関や民間団体等で設立した「自然環境保全ネットワーク」の充実を図り、不法投棄や違法採取の防止など、関係機関と連携を図りながら、自然環境の保全や利活用に取り組んでまいります。

持続可能な循環型社会の実現につきましては、平成27年度から導入しているバイオマステクトプラントによる、島内循環システムを構築し、生成された液肥を散布することができました。今後は、本格プラント導入に向け、最適な規模、設置場所及び費用などの実証効果について分析し、明らかにしてまいります。

昨年、日本初導入の交換式カセットバッテリーによる電動スマートスクーターの運用が民間により開始されました。

本市においては、自然が育んだエネルギーと先端技術の組み合わせによって、市民生活のサポート及び魅力ある観光資源の発掘・育成に取り組むため、電気自動車充電ステーションを整備し、EV車の普及を促進してまいります。

廃棄物対策につきましては、一般廃棄物処理施設の経年劣化による機器の不具合や最終処分場の残余埋立量が逼迫した状況となっていることから、平成30年度に実施計画を策定し、現状に即した施設の整備を検討してまいります。

星空保全条例につきましては、国際ダークスカイ協会による星空保護区認定の承認をふまえて、平成30年度内の星空保全条例の制定に取り組んでまいります。また、市街地においてその魅力を発信する場として、プラネタリウムも上映できる多目的ドームシアター「石垣市美（ちゅ）ら星（ぼし）ゲート（仮称）」を整備し、本市の観光資源の一つである星空の魅力とその価値の更なる向上を目指してまいります。

世界的にも貴重な固有種が生息している尖閣諸島は、我が国固有の領土であり、本市の行政区域です。昨年、中国公船による領海侵入は、延べ108隻を数え、今年1月には、中国潜水艦や中国海軍フリゲート艦も我が国の接続水域への入域が確認されています。

本市としては、国に対し、市民の安全・安心を確保するため、警備体制の更なる充実、わが国の領土、領海を守る取組の強化について、改めて申し入れました。

また、国は、本年1月に竹島や尖閣諸島をめぐ

る情勢について発信する拠点として、「領土・主権展示館」を東京に開館させました。これにより、尖閣諸島に関するわが国の領土・主権が広く知ることができるよう国内外への情報発信の「場」として、より多くの人々に理解が深まる

ことが大いに期待されます。本市といたしましても、国と緊密に連携し、尖閣諸島の広報・情報発信に取り組んでまいります。

快適で生活しやすいまち 「いしがき」

2. 快適・安心

旧空港跡地につきましては、緊急車両による安全な搬送の確保や施設利用者の利便性の向上など、早期の道路整備が求められています。

平成30年度は、旧空港跡地線の道路整備工事に着手し、平成33年度の一部供用開始に向け取り組んでまいります。また、新川団地西通りの石垣3・5・11号街路につきましても、平成33年度の供用開始を目指し、用地の確保を行ってまいります。

公園の整備につきましては、緑地の保全・創出や地域文化の継承を図るため、平成30年度は、あんぐん公園の園路広場の造成、石垣市中央運動公園子ども広場トイレ周辺園路の段差を解消するバリアフリー化整備を行ってまいります。

住生活の安定の確保につきましては、新川市営住宅の建て替えに向けた実施設計に取り組んでまいります。

八重山圏域の空の玄関口である南（ばい）ぬ